

国産材の利用実態に関する調査研修と量産工場視察

久慈地域のアカマツ販売方策を検討する上で重要となる設計、施工業者の国産材の利用実態について情報収集を行うため、南部アカマツ振興センターにより、平成21年5月に、秋田県立大学木材高度化技術研究所で調査研修が行われました(参加者7名)。併せて、外国産アカマツを取り扱うハイテクウッド(株)能代港工場の視察が行われました。

国産材の利用実態については、国内685社の中小規模の設計、施工業者へのアンケート調査について以下のような講演が行われました。

設計、施工業者は国産材活用の理由として、他社との差別化、消費者ニーズの変化、環境負荷低減を挙げ、外材から国産材へ材料を転換することで、地域産業活性化を期待している。

木材製品において、表示して欲しい項目として、含水率、産地、強度等級を挙げている。国産材普及条件として、価格

の適正化、天然乾燥基準の整備、乾燥材供給体制を挙げている。

設計、施工業者は生き残りのため、顧客との対話能力が必要であると認識している。

一方、視察を行ったハイテクウッド(株)は、欧州アカマツ集成材、ロシアアカマツ下地材を量産するJAS工場で、販路は東北、関東となっており、強度、含水率の品質表示が行われておりました。また、生産コスト低減のため加工ラインの高速化が図られておりました。

南部アカマツ振興センターでは得られた情報を基に、地域材の販路、品質等について検討を進める予定となっております。

